

技術士として

所属：中央測量設計株式会社

氏名：野坂 和典

部門：建設



北陸支部

略歴

1975年生れ

福井県出身

趣味：特になし

抱負：技術士として
一生懸命コツ
コツとやる

入社したてでまだ右も左も分からない頃、数量計算書のチェックをしていた私に会社の先輩が一冊の本を提供してくれた。理工図書発行の『道路工学』という図書で、大学の講義で使用されていたそうである。道路技術に関する基準やマニュアル、指針や要綱を取り入れたものであり、道路の歴史、一般構造、土工、舗装、付属施設、維持修繕について記述がなされている。これを見て、私は道路の実務に対する知識が無いことに気が付き、愕然としたことを覚えている。以後、少しずつではあるが、日本道路協会発行の『道路構造令の解説と運用』や『道路土工』等の指針を参考にしながら業務に携わることになった。

業務内容も道路の調査から道路設計、歩道設計、交差点の設計、擁壁等の一般構造物の設計へと広がるうちに参考とする図書もどんどん増えていくことになった。現地状況やクライアントの要求により設計条件が異なるため、対処方法も多種多様である。マニュアルに記述されていないことは試験や経験によることもあった。

従来工法では対応できない箇所については新技術や新工法で対応することも多々ある。道路に関連して河川や地すべりに関する専門家と協議することが多くなり、道路以外の知識も多少なりとも身に付いた。協議の結果で設計内容が変わってしまうこともあり、その度に自分の説明力のなさを痛感しながら修正を行うこともあった。

基準やマニュアルに基づき設計したものであっても、現場条件により設計図とは異なった施工がなされる場合がある。最近では、事業内容も道路改良工事から維持修繕工事のための業務が多くなり、現況構造物にあわせた設計となるため、現地構造物の調査がますます重要になっている。

大学レベルの土木に関する知識もなかった私が運よく技術士の資格を得ることが出来た。日常の業務自体がテキストとなっていたためであり、実力を身につけるには、実践を繰り返すことこそ最も効率的な方法なのだと認識させられた。基礎がもっとしっかりしていればさほど時間をかけずに済んだのかもしれないが、地元で活動する中で、土地勘や人々とのつながりが実力不足を補ってくれた。

地方においては移動手段の多くを自家用車に依存している。特に福井県は自動車利用の割合が76%で全国トップクラスである。高齢化と人口減少時代を迎え、環境に優しく、安心・安全で、景観に配慮のなされた、コストパフォーマンスのよい社会資本整備が求められている。全ての条件を満たすことは不可能に近いが、私は最良な提案を行い、利用者に納得してもらえるような道路づくりを心掛けたい。技術士になったからといってプロフェッショナルであるとは思わない。プロフェッショナルになる権利を得たのだと考えている。引き続き自己研鑽に努め、専門性を高めなければ、必要とされる技術者となることはできないし、必要としてくれた人を満足させる成果を収めることもできない。